

## 泊発電所3号炉

### 地盤(敷地の地質・地質構造)に関するコメント回答

(F-1断層の活動性評価に関する追加調査の事前検討について)

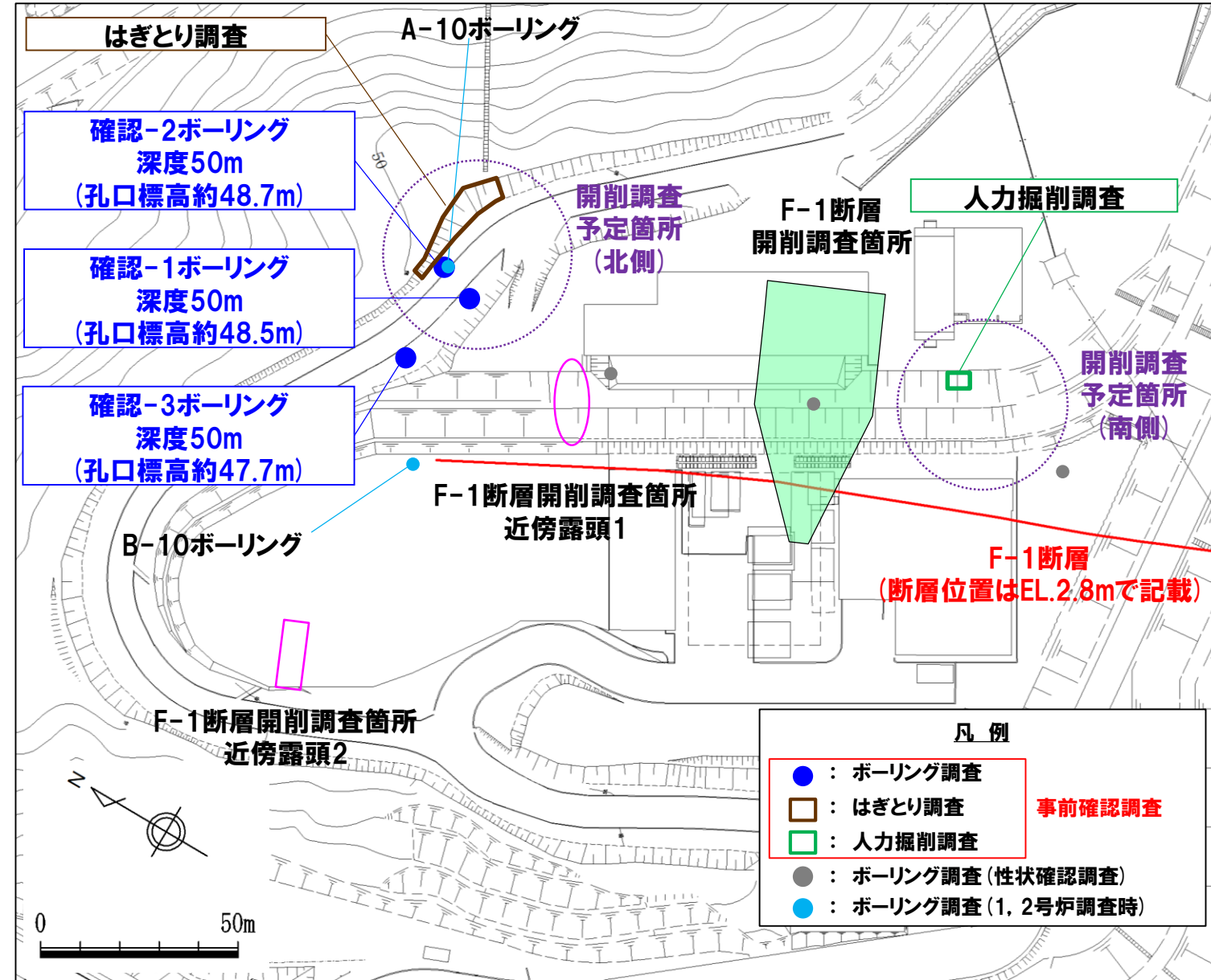
(ボーリングコア写真)

令和元年6月28日  
北海道電力株式会社

## **事前確認調査(確認-1～確認-3ボーリング)**

# 事前確認調査(確認-1～確認-3ボーリング)位置図

○事前確認調査のうち、確認-1～確認-3ボーリングの位置を下図に青字で示す。  
 ○確認-1ボーリングのコア写真をP4～P7に、確認-2ボーリングのコア写真をP8～P11に、確認-3ボーリングのコア写真をP12～P15に示す。  
 ○また、確認-1～確認-3ボーリングにおいて認められる劣化部※の拡大写真をP16～P18に示す。



調査位置図 (改變後の地形)

※粘土を挟在若しくは付着する割れ目、鏡肌や条線が発達した割れ目等のうち、F-1断層と走向・傾斜が比較的類似したものを劣化部として抽出。





孔口標高:約48.5m



コア写真(確認-1ボーリング:深度0~15m)





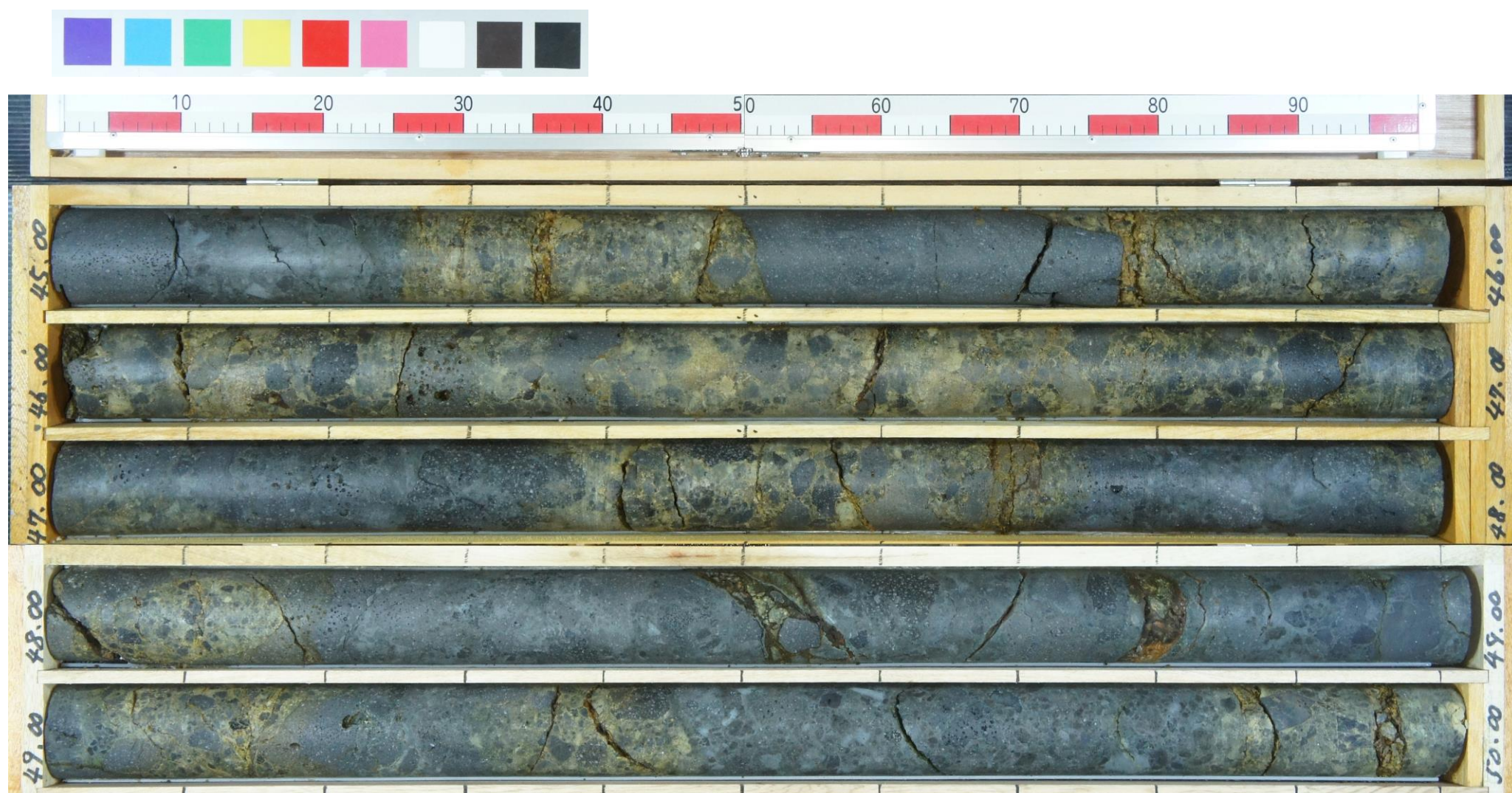
コア写真(確認-1ボーリング:深度15~30m)





コア写真(確認-1ボーリング:深度30~45m)





コア写真(確認-1ボーリング:深度45~50m)





孔口標高:約48.7m



コア写真(確認-2ボーリング:深度0~15m)





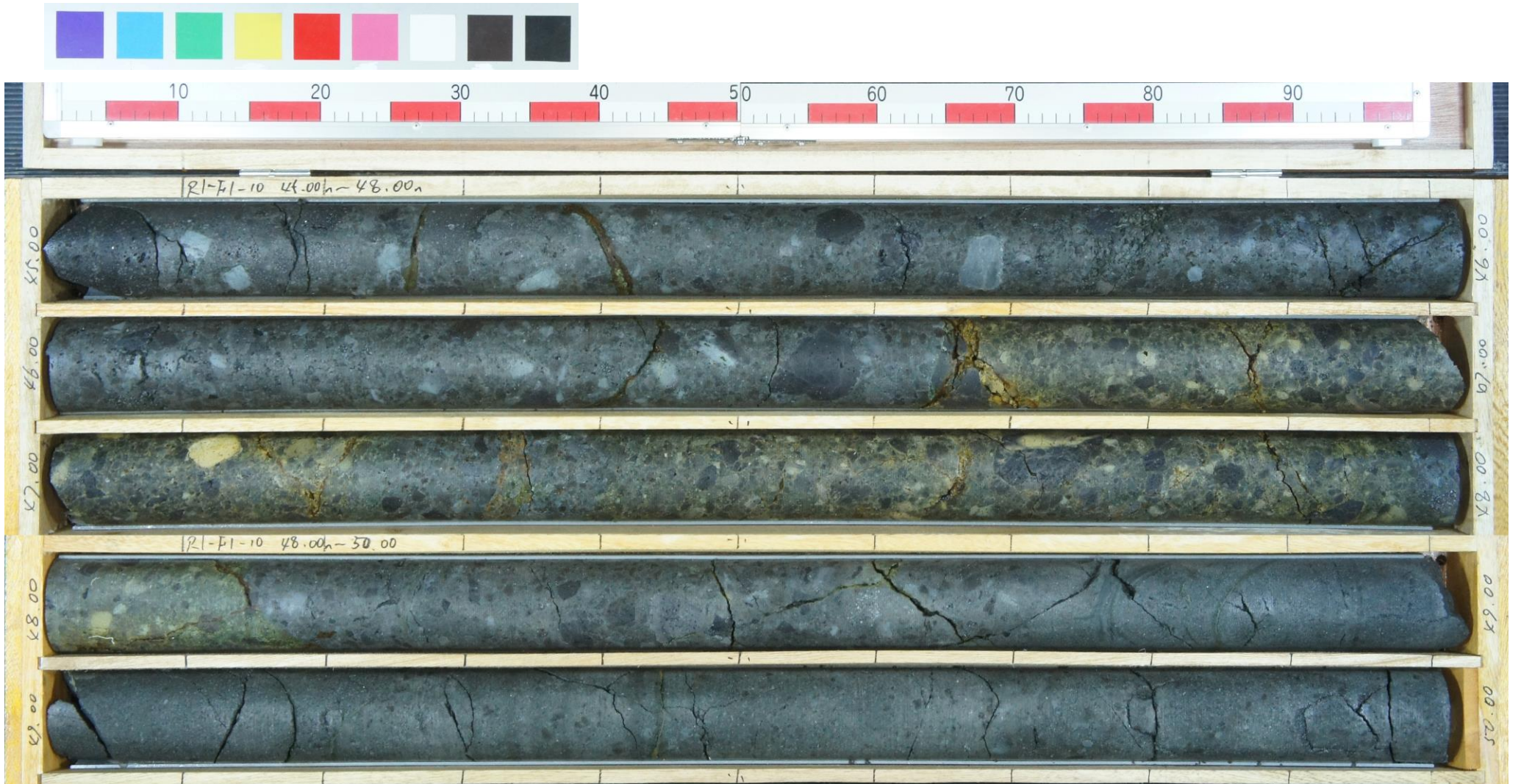
コア写真(確認-2ボーリング:深度15~30m)





コア写真(確認-2ボーリング:深度30~45m)





コア写真(確認-2ボーリング:深度45~50m)





孔口標高:約47.7m



コア写真(確認-3ボーリング:深度0~15m)





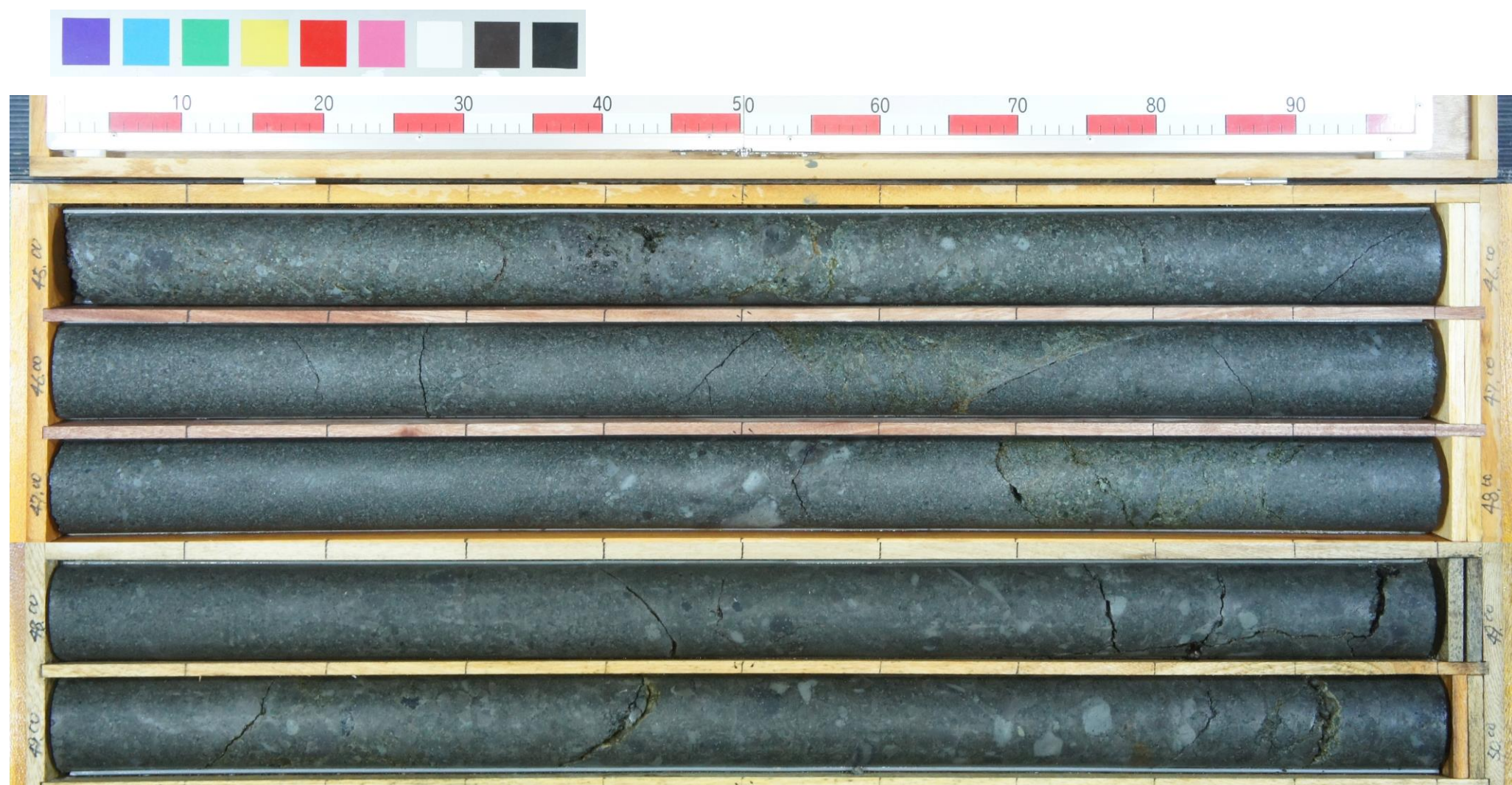
コア写真(確認-3ボーリング:深度15~30m)





コア写真(確認-3ボーリング:深度30~45m)





コア写真(確認-3ボーリング:深度45~50m)



- 確認-1～確認-3ボーリングにおいて認められる劣化部の拡大写真をP16～P18に示す。
- なお、粘土を挟在若しくは付着する割れ目、鏡肌や条線が発達した割れ目等のうち、F-1断層と走向・傾斜が比較的類似したものを劣化部として抽出している。

【ボアホールテレビ画像による劣化部の走向・傾斜の速報値】

○深度6.05～6.40m

N2° E/47° W

○深度11.60～11.80m

N13° W/50° W

(参考)

○1,2号炉調査において確認されたF-1断層の走向・傾斜

N8° E～20° W/43° ～54° W



劣化部



コア写真(確認-1ボーリング:深度6～7m)



劣化部拡大写真(深度6.05～6.40m)



コア写真(確認-1ボーリング:深度11～12m)



劣化部拡大写真(深度11.60～11.80m)



## 【ボアホールテレビ画像による劣化部の走向・傾斜の速報値】

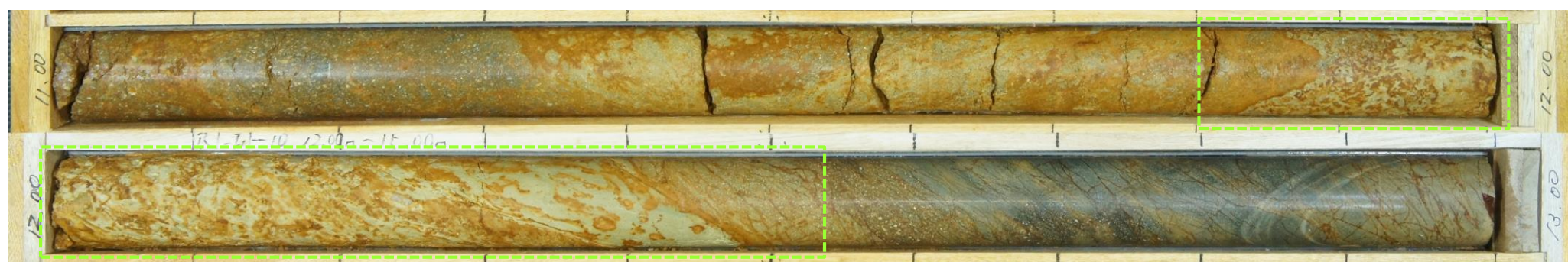
- 深度11.80～12.54m  
N25° W/60° W
- 深度18.47～18.83m  
N10° E/62° W

## (参考)

- 1,2号炉調査において確認されたF-1断層の走向・傾斜  
N8° E～20° W/43° ～54° W



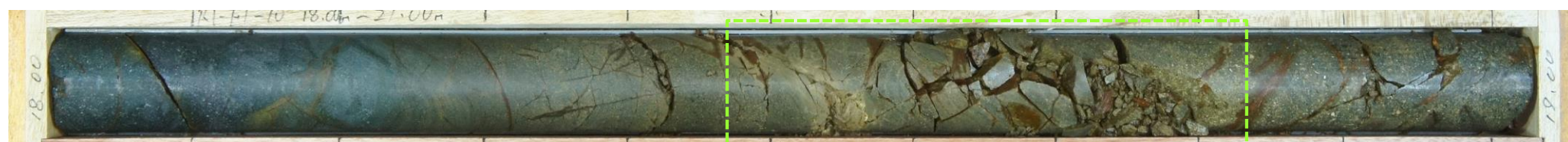
劣化部



コア写真(確認-2ボーリング:深度11～13m)



劣化部拡大写真(深度11.80～12.54m)



コア写真(確認-2ボーリング:深度18～19m)



劣化部拡大写真(深度18.47～18.83m)



【ボアホールテレビ画像による劣化部の走向・傾斜の速報値】  
 ○深度31.83～32.20m  
 N17° W/55° W

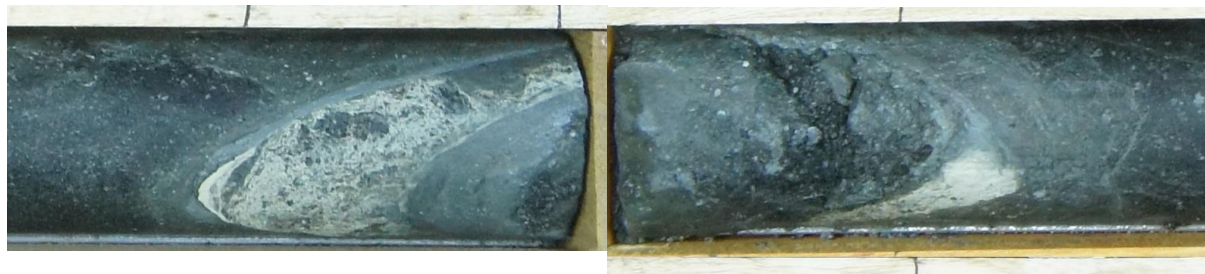
(参考)  
 ○1,2号炉調査において確認されたF-1断層の走向・傾斜  
 N8° E～20° W/43° ～54° W



劣化部



コア写真(確認-3ボーリング:深度31～33m)



劣化部拡大写真(深度31.83～32.20m)

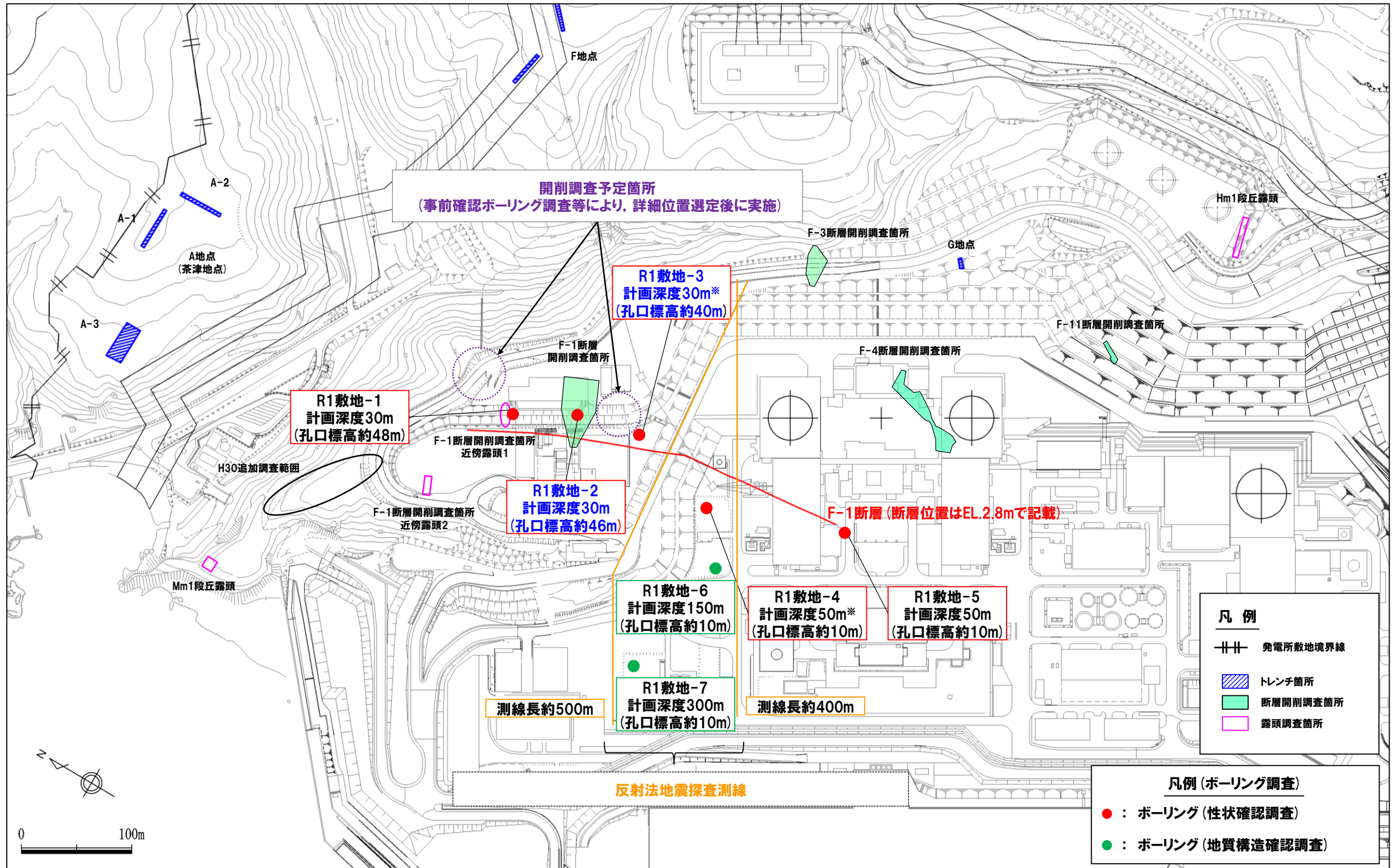


**(参考)性状確認調査(R1敷地-2及びR1敷地-3ボーリング)**



# (参考)性状確認調査(R1敷地-2及びR1敷地-3ボーリング)位置図

○性状確認調査のうち、掘削が完了したR1敷地-2及びR1敷地-3ボーリングの位置を下図に青字で示す。  
 ○参考として、R1敷地-2ボーリングのコア写真をP21及びP22に、R1敷地-3ボーリングのコア写真をP23及びP24に示す。



調査位置図 (改変後の地形)

※当該ボーリングは、F-1断層の性状確認を主目的として実施するが、調査結果は、反射法地震探査結果との対比にも用いる。



孔口標高:約46.0m



コア写真 (R1敷地-2ボーリング:深度0~15m)





コア写真 (R1敷地-2ボーリング:深度15~30m)

F-1断層が分布すると  
想定される範囲



孔口標高:約39.6m



コア写真 (R1敷地-3ボーリング:深度0~15m)



F-1断層が分布すると  
想定される範囲





コア写真 (R1敷地-3ボーリング:深度15~30m)

F-1断層が分布すると  
想定される範囲